広報松之山
題字は　佐藤町長
印刷あかつき印刷所

# 下鯰池の田復旧746万円など追加

## 12月定例議会

### 医師は新大から短期交替で

十二月定例議会は、十二月十八日午前九時から町役場で開催された。

当日は、昭和四十二年度一般会計第四回補正予算のほか、請願一件、陳情一件を採択、午後二時閉会した。

請願、陳情の内容は別項

席上、佐藤町長は、挨拶の中で、いま全町民が心配している医者の問題について、新大当局の配慮によって十二月二十五日から、短期間交替で医師一名が派遣されることになった旨報告された

今回、追加補正された予算額は、九百二十万四千円で、その財源は、地方交付税五百三十五万円、災害復旧事業に対する県補助金三百十三万円などである。

これで昭和四十二年度町の総予算額は二億三千四百四十九万円となった。

追加を要した主な事業はつぎのとおりである。

| 項目 | 金額 |
|---|---|
| 一、松之山公会堂地区復旧補助金 | 三七五千円 |
| 二、役場車庫移転増築 | 六八〇 |
| 三、産業共同加工（松里・南部） | 一七七 |
| 四、松里地区火葬場補助 | 三七五 |
| 五、養蚕施設補助（松之山養蚕） | 四〇七 |
| 六、除雪ブル運転手、燃料 | 七五〇千円 |
| 七、消防団退職報償、公災負担金 | 五三三 |
| 八、高校生下宿補助 | 五一〇 |
| 九、下池田復旧のり保全工事 | 二九七〇 |
| 十、下池地区地区ポーリング工事 | 四四九 |
| 十一、農地等復旧事業借入金利子 | 五〇〇 |

**請願の内容**

一、食肉冷凍施設に対する助成について、組合より提出。

（七万円の助成を決定）

二、大字松之山に常設保育園を建設することについて、松之山はかつ部落総代並びに会小塚さくさんから提出

（採択し、社会厚生委員会に附託された）

**陳情の内容**

一、松之山温泉スキー場ロープ場の建設について松之山スキー連盟が陳情代表者で、商工会、観光協会などの連署によるもの

（採択し、産業委員会に附託された）

## 正月帰り284名元気で

出稼者の正月帰省バスは、十二月三十一日、午前九時十四分無事到着しました。

前日の吹雪もさりげなく晴れ上ったこの日は出迎えの家族達も朝早くから参集し、電話で刻々にはいってくるバス運行の知らせに落つかない様子でした。

午前九時頃人島村の中野でバスが満にすべりこみ一時間位おくれるという情報がはいると、「さてもうすこしかしといいながら、固にはいるもの、しばらく足踏みするものなど、まちまちでした。

バス遅延通過?この頃になると、出迎えの人々に混って佐藤町長や、大見助役らの顔も見えてきました。

やがて、除雪のブルドーザーのわだちもまだ新しい雪道に、エンジンの音が、伝わってくると急に出迎えの人垣はざわめき、一人一人がのしかかるようにバスの方向を見つめていました。

バス到着!!まち構えたようにバスの扉が開かれて、ほほえみながら真新しいオーバ、アノラックを着た凱旋将軍のように元気な出稼者達がつぎつぎに降りてきました。

一同は、佐藤町長から歓迎の挨拶をうけたのち、松平、浦田、布川方面にわかれ再び乗車、我が家へと急いでゆきました。

今回の帰省バスは、東京方面から五台（二三〇名）名古屋方面から一台（二〇名）大阪方面から一台（三四名）帰省者は合計二六四名でした。

名古屋方面からの車は今回は松代と合同で配車したため、帰省者に不便をおかけしましたが、次回は、このようなことのないよう計画をたてることにしています。係では、この帰省バスについてのご意見等お寄せ下さることをお待ちするとともに、各位の理解あるご協力を期待しています。

写真は、松之山かしわ屋前に着いたバス

## 待望の全日制に

### 安塚高校松之山分校

高校の全日制への転換問題については、町民多年の悲願であったが、くり返しての請願、陳情が容れられて、このほど県下第一番目の全日制分校として、昭和四十三年度より出発することとなった。

このことは、昨年十二月県立高等学校整備委員会が、安塚高等学校松之山分校の全日制普通科二学級募集（二学級定員四十八名）として、県教育庁より発表されたものである。

県下、初の全日制分校として、今後もまたいろいろな面で県下に注目される高校となったわけであるが、今度、農業科が、なくなって、その分、農業後継者教育に、選択として今までどおり十分にできることになりました。女子の家庭科教育も同様な方法で、従来とほとんど異なることなく実施できることになった。従って設置科については、実質上、今までどおりということとなる。

なお、新年度からの「入学試験」は県下全日制高校と全く同様な日時、科目、方法となり、科目は「国語」「数学」「英語」の必修三科目と、選択として「理科」「保体」の計五教科五科目となる。

## お医者さんが来た

### 新大から短期交代で

町にどうしても、もう一人のお医者さんがほしい、町長を先頭に関係機関への陳情がくり返されました。

切実な要望にこたえて新潟大学から、短期交替で明春三月頃迄医師が一名づつ派遣されることになりました。この第一陣として十二月二十五日、青木医師が着任されました。

青木医師は、一月初旬中央診療所で、診療にあたり、その後は、白木医師と交替することになっています。

写真は、青木医師

## 重野さんの牛

### 最優秀賞に

十一月三日高田市で開かれた頸城連合畜産共励会に出品した下鯰池、重野徳一さんの子牛が最優秀賞をかく得又、八月二十三日、大阪市で開催された「くびき肉牛枝肉共励会」に出品の浦田、本山農さんの肥育牛が最優秀賞を得るなど、和牛生産への日頃の努力と技術の向上が認められた成果は大きい。

重野さんの生産した子牛は、母牛が三十九年に新発田市で行なわれた「新潟県畜産共進会」で優秀賞になったもので親子連続の上位入賞である。またこの母牛は七八点三分を獲点した登録牛ですでに三産している。

重野さんは、「よしふく」号を母牛以上の体型と能力を持った繁殖牛に育て上げたいと言っている。

重野さんの生産した子牛

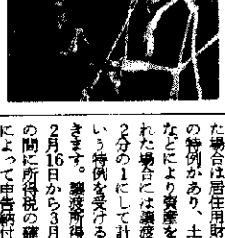
| 項目 | 明細 |
|---|---|
| 種号 | よしふくすめ |
| 性 | 雌 |
| 生年月日 | 昭42.5.18 |
| 血統 | 父 久号 兵庫産 (79.29点)<br>母 よしえ 鳥取産 (78.33点) |
| 発育（生後170日分） | 体重 185キロ<br>体高 102.5チ<br>胸囲 129ク<br>管囲 13.5ク |

## 牛で五十万円を

### 曽根の佐藤さん

町の子牛生産頭数の五五%を占め、今年もすでに百八十頭の肥育牛を出荷した浦田農協地区では、最近多頭飼育を行なう農家が増えている。

曽根部落の佐藤栄一さんもその一人である。佐藤さんはここ数年、多いときは十一頭、少ない年でも六頭の肥育牛を出荷し続けてきた。それによって目標の畜産収益三十万円を達成できたという。



そこで今度は和牛肥育で四、五十万円の収益を目標に、十頭の多頭飼育に挑んでいる。農業後継者育成資金（五年間に年賦償還、無利息）を借りて牛舎を新築し六頭の若令肥育牛を収容はじまって以来の最高値であった。

本山農さんの最優秀賞を受けた肥育牛

| 項目 | 明細 |
|---|---|
| 生産 | 530キロ |
| 枝肉重量 | 290.4ク |
| 枝肉歩留 | 54.7% |
| 枝肉単価 | 910円 |
| 枝肉価格 | 264,264円 |
| 皮代 | 13,122ク |
| 販売代金 | 277,386ク |

（写真は佐藤さんの牛舎）

## 譲渡所得について

土地や建物などの資産を売った場合の所得を譲渡所得といい、譲渡代金から売った資産の取得費や仲介手数料登記の費用などを差し引いた金額（譲渡益といいます）から譲渡所得の特別控除額（30万円、譲渡益が30万円未満の場合はその全額）を控除して計算します。この場合、売った資産が3年をこえる期間所有したものであれば右の譲渡所得金額の2分の1だけが課税の対象になります。また、土地や建物などを売ってその代金で1年以内に住宅を買った場合は居住用財産の買換の特例があり、土地収用法などにより資産を買い取られた場合には譲渡益をまず2分の1にして計算するという特例を受けることができます。譲渡所得は翌年の2月16日から3月15日までの間に所得税の確定申告書によって申告納付することになっています。譲渡所得のことがわかりにくいことがあったらいつでも税務署へご相談下さい。

「毎月5の日は税の相談日です。お気軽にどうぞ」

（高田税務署）

## ご挨拶

町長　佐藤重孝

町民の皆さま新年おめでとうございます。

昨年中は公私ともに格別なご協力をいただきまして誠にありがとうございました。ここに厚くお礼申上げます。

本年もどうか変りないご支援と協力を賜りたくお願い申上げます。

松之山町の地に災害復旧事業も国県その他関係機関のご高配により一部を除きまして大体順調に進められつつあることは被災関係者とともに喜んでいる処でありますがしかし町には目下重要案件が文字通り山積しておりまして町民の皆さまのご理解とご協力なくしてはひとつとして解決することは不可能であります。

ことには山積している問題のなかから特に真剣に取り組んでまいりたい点思っていることはまず医療施設の整備であります。それは中央診療所を改築したり医師住宅を設けたりして医師の招へいを計りたいことであります。

次に温泉山村振興計画実施町村に加えていただきまして町道の改良や農道の新設など今後の産業発展への基盤づくりに役立てるべく努力を傾けたいと思います。

次に登記所の復帰への受入態勢、明治百年を記念して町村に加えていただきまして町道の改良や農道の新設など今後の産業発展への基盤づくりに役立てるべく努力を傾けたいと思います。

ようご祈念申上げます。

年のはじめにあたり簡単でありますが一言お礼と陳感の一端を申述べましてわたしのご挨拶といたします。

× × ×

# 自慢の共同火葬場

## ずい道と用水路に辛苦の歴史

### 部落探訪　天水島

交流は、昔から中魚沼、飯山方面とは深かったという。

ずい道のなかった時代、馬に乗ってがんが峰を越えた素朴な光景が想像される。

＊農道の整備、米作り競争も＊

町の中でも、天水島はかつては作業馬が多く一戸当りの構成人口も多かった。

「田場所が悪くて手間が要る。距りが遠いということがそうさせたのだ」と。

昭和三十三年にはこの部落だけで十六頭もいた馬が現在は一頭もいなくなっている。

がんが峰ずい道のある部落といえば誰でもこの部落を思いおこすにちがいない。

貨車の通る飯山線へ抜けるにはあの山をぶち抜くことだ。大正十五年十月部落の人達は頑敵の山腹にツルハシを振った。

＊土地を担保に＊

「県から四割位の補助をもらった。あとは、代表者の土地を担保に動産から金を借りて工事費をまかなった」

「今になればがんが峰とか農原峠とかの綱張りを乗り越えて松之山町に一番有利な線ということでまとまるのではないか、そういう時代になっている」

松里地域と松之山地域はどっちの峠をうち抜くか大いに対立していたもののようである。

松里地域では、経済的なずい道ばりを＊

「明治二十年頃には農道に水路を作って米づくりにはげんだ歴史がある」

「蚕産、キノコ、鶏もいい、ことしの豊作をけい機にやはり米だという考えが出てきている。

「総経費は百六十万円、中坪と島が一戸四千百円総と湯本が四千八百円の負担です。火葬の場合一件当り四千円（町から三千円個人千円）を徴収します。

部落の人達は極楽館と呼んで、よろこんでいます」

このほかに専門の火葬係を月二千円で依頼、火葬料の四千円もこの人に支払うことになっている。十二月の町議会でこの施設に対し三十七万五千円の助成がきまった。

＊保育所を統合したい＊

この地域で共同保育所をつくりたいという希望もある。

「保育所はいま地三二人島三二人、これを統合して設備をよくしたいが伸々よい場所がなくて困っている」

ご婦人方もなんとか実現してほしいと同意見である。

自慢の共同火葬場

この部落を含めて松里地区四部落自慢の共同火葬場がことし十月に完成した。

部落長の久保田さんは、つぎのように説明した。

「部落の人達が集まって話し合いをしてこの施設をつくることになった。

一般は農協合併に批判的

新しくモダンな松里農協はこの地域の方々のシンボルともいえるようだ。

最近町内で農協合併の話がすすめられているがこれについては、

「合併すべき時代にきているのでないか、いろいろな意味を含めて」

またこういう意見もある。

「今までは朝早くとか、ことによると夜なべにも気軽に用を足してもらったこともある。

合併して大きくなるとどうしても時間も官庁なみになって気軽に用足しは出来なくなる。かえって地域住民には不便になるのでないか」

だから合併には反対だという。

部落の中でも上層部は賛成一般の農家に批判的と見うけられた。

＊新しい役場ガラスの仕切りがほしい＊

新しい役場は入りにくいとみんなはいう。

「ドアを開けて入ったとたんに、全職員がいっせいにこちらを見るような感じでいやだ、窓ガラスの仕切りはできないか」と婦人方は訴えていた。

＊生業で生活したい＊

「出稼の帰省バスは非常に有難い」と皆んなによろこばれている。

「立地条件を活かした内職を研究してほしい」

「しかしなんといっても生業で生活できるということを基本にお互いが努力しなければならないのではないか。

がんが峰の山々には既に初雪が白く見える。その中夜を縫ってえんえんと用水路がきずかれてがんが峰の向う側へ水が流されている。

古い時代にたとえようのない辛苦のすえ、完成したものであろう。

部落のすそを流れる総道川の流れと共に、たゆまず耕やしつづけてきた沢山の人々の労働の尊さを今更の感じでいやだ、感じないではいられなかった。

（共同火葬場）

（組写真は松代・久保田さん）

## 新春俳句

## 戸籍手数料が五十円

戸籍手数料の改正により各種の証明料が四十円のところ五十円になります。

実施は四十三年一月一日から

（戸籍係より）

## 若さがあふれる クリスマスパーティ

暮れの十二月二十三日松之山小学校で、町内の農協・役場・郵便局・学校・商店、旅館など、各職場の青年男女約八十名が参集し、楽しいクリスマスパーティーが開催されました。

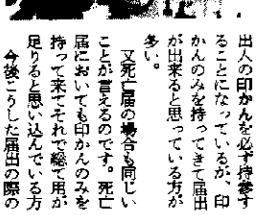
花やテープできれいに飾られた会場にズラリならんだ若者達の手からいっせいにクラッカーがパンパンと威勢よく飛び、赤青黄のテープが投げられると会場はどっとにぎわい若さがあふれました。

歌にゲームにフォークダンスに、今年はじめてとり入れたドッチボールに人気が集まり、寒さをふきとばしての四時間でしたが、親睦と友好を深め、この冬を元気にすごそうと話しながら、しんしんと降る雪の町へ散って行きました。

このクリスマスパーティは六年前に町の連合青年団を中心に各職場の青年、役場郵便局、農協、学校、商店旅館の、若い人達の間で計画されたものです。

パーティに集まって来る顔も年々広がり、子供さんの手をひいてうれしそうに集まって来るすがたも見えこの時期でのたのしい年中行事となっています。

（写真はクリスマスパーティ）



## 届出　必ず保険証と印かんを

先月の公報でもお知らせしたところでありますが、まだ届出には必要書類の添付がなく我々担当者は事務の整理が複雑となり困っています。

例えば

出生届の際は母子手帳をそして国民健康保険証と届出人の印かんを必ず持参することになっているが、印かんのみを持ってきて届出が出来ると思っている方が多い。

又死亡届の場合も同じことが言えるのです。死亡届においても印かんのみを持って来てそれで総て用が足りると思い込んでいる方今後こうした届出の際の保険証、母子手帳、又死亡届の場合の保険証、国民年金証書等の持参がないときは届書の受理ができないことになります。

○場合届は結婚式と同時に二人で届出を

この届出のときも双方の印かんと国民健康保険の保険証と国民年金手帳が必要です。

○住民異動届は必ず十四日以内に

転入転出の届出にも国民健康保険の保険証が必要です。転入のときは今まで働いていた所で掛けていた保険の証明と最後に掛けた月が必要です。

## 町民の広場

光間　田辺キミ　63

この間支給された乳児のミルクの一部負担が八かんで一千五百二十円でした。今までなかった制度だからといえばそれまでですが乳児のミルク位は無償で支給できないものでしょうか。

私は戦時の未開者ですが、松之山の生活にはすっかりなれてしまいました。ただ冬の交通と医者不足の問題には不安でなりません。

金がかかって大変だと思いますが、冬もこの一本だけは必ず車が通れるという道路を確保してもらいたい。

中央の診療所にもお医者さんをみつけてもらいたい。殊に産婦人科医を、町ぐるみの運動でなんとかできないものでしょうか。都会には沢山のお医者がおいでになるというのに。

松口　本賀富平次　69

松口は道路が悪くて困ります。部落費の半分は道路にかかります。

町道なんですから町から整備してもらわなければならないもんだと思いますが。

耕運機が部落に入るのに荷物を半分もおろさなければならないとか、松代から池尻をぐるりとまわって稲を運ばなければならないとか、これしゃ困ったもんです。

次に川手分校の煙突のことですが、ススが机、ノート、本の上にたくさん落ちて来て困っています。煙突掃除を先生がやっていますが、人夫を頼んでやれるように町でめんどう見てもらえないでしょうか。

月池　保坂正直

町にいちばんお眼しましたことは、道路を良くしてもらいたいことです。職業柄（運転手）とくに強く感じます。補田と宇野を結ぶ道路を改良することはできないものでしょうか。

松之山は農業で成り立っている町です。耕地条件を良くすることによって生産性を高めるなど、農業を良くすることが必要だと思います。

農業を安定させることは今問題になっている後継ぎの確保にもつながるのではないでしょうか。私の部落でも後継ぎが都会へ出て帰って来ない家がたくさんあります。これはむずかしい問題ですが、どこか一本に集約して問題をつめることが必要だと思います。

## 本年の稲作から思いつくまま　(1)

農業改良普及員　横口重雄

ちょうど今年は、県では「米百万トン増産運動」にとりくみ昭和四十五年を目標に米の生産量を百万トンに引上げようとし、すべての関係機関を動かし、県民ぐるみの運動として再出発した。

これまでの「うまい米づくり運動」はその趣旨がよい米々が強調される反面増収の点で弱かった面があり、期待されながら、その成果は上らなかったとの声もある。

当松之山町においても「百万トン」に呼応して「米五千トン増産運動」を取り上げて、最後の年には十アール当り二割増の四百キロを目標に取組んでいるが、幸い今年の稲作は反収で去年の百二〇%と予想以上の好成績となり、米の売渡量においては百二十八%を記録した。

この期間を過ぎたときは直江津簡易裁判所まで出向いて二千円以下の過料を徴収されます。注意して下さい。

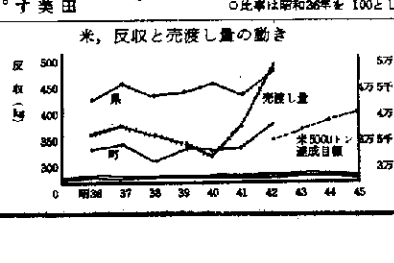
復旧直後は地力が不安定で肥培にも欠けたことから収穫の多くは望めなかったが今年は素晴しい出来ばえを見せ復旧田で反収九俵をあげたところも珍しくなかった。このように一時は収穫から全く見離されたものの年とともに生産が高まるのを経験するとき、初めて実感として復旧の喜びをかみしめることであるとともに新たな増収への意欲がわいているものと思う。それと同時に来年は更に飛躍した増収が望めるよう今から計画が必要と思う。今年の親作会の結果では町のものに出品された中立山の佐藤忠義さんが総河で六百三十八キロの反収で第一位を獲得、補田地区農研連で実施しているものに参加した北補田の早川敏市さんが農林四十一号で七百七十キロを上げ、ともに今までの記録更新であったが常にたゆまざる研究と努力が実ったものと思う。

米の農協別売渡し状況（俵）

| | | 昭39 | 40 | 41 | 42 |
|---|---|---|---|---|---|
| 松之山 | 里 | 11.214 | 10.261 | 12.480 | 15.856 |
| | 川 | 5.284 | 4.838 | 5.530 | 7.537 |
| 松代 | 田 | 4.327 | 4.040 | 4.616 | 5.771 |
| 布 | 補 | 14.121 | 13.117 | 14.853 | 19.074 |
| 計 | | 34.946 | 32.256 | 37.479 | 48.238 |
| 比率（%） | | 96.9% | 89.5% | 104% | 134% |

○昭和42年の売渡し量は12月15日現在
○比率は昭和36年を100としての%

米，反収と売渡し量の動き




## 意欲がもたらした豊作

地すべりにやられた水田もようやく復旧し新しい美田になり農家も稲作に対する意欲が盛り上って来た。